Topics 2

第75回全国植樹祭 埼玉2025

人・森・川　つなげ未来へ　彩の国

全国植樹祭とは

全国植樹祭は、天皇皇后両陛下のご臨席のもと、豊かな国土の基盤である森林・緑に対する理解を深めるため、昭和25年から各都道府県を巡って毎年春季に開催されている国土緑化運動の中心的な行事です。

５月25日に、秩父ミューズパーク（埼玉県秩父市・小鹿野町）で、「人・森・川　つなげ未来へ　彩の国」をテーマに「第75回全国植樹祭」が開催されました。埼玉県では、昭和34年に寄居町の金尾山で「第10回全国植樹祭」が開催されて以来、今大会が２回目の開催となります。

式典では、主催者として、大会会長を務める額賀衆議院議長と大野埼玉県知事のあいさつの後、天皇陛下から「埼玉県においては、昭和34年に寄居町にある金尾山で第10回大会が開催され、その会場に植樹された木々は現在緑豊かに育ち、地域の多くの人々に親しまれていると聞いています。一人一人が、これからも森林を大切にし、木の循環利用を進めながら健全な森林を育み、未来へと引き継いでいくことは、私たちの果たすべき使命であると考えます。人々が森や川を大切にしながら自然に親しみ、健全な森林づくりや木材の利用を更に進める活動が、ここ埼玉の地から全国へ、そして未来へつながっていくことを願います。」とのおことばを賜りました。

続いて、全国の緑化功労者や全日本学校関係緑化コンクール等の表彰、久那小みどりの少年団から小泉農林水産大臣等への苗木の贈呈、大会会長や農林水産大臣等による記念植樹が行われました。

天皇陛下におかれては、ケヤキ、少花粉スギ、トチノキの苗木をお手植えされた後、少花粉ヒノキとアカシデの種をお手播きされました。

さらに、式典中の映像、ダンス、伝統芸能を交えたアトラクションでは、大会テーマや埼玉県出身で日本最初の林学博士である本多静六氏の思いを豊かに表現し、エピローグアトラクションにおいて、森林資源の活用、木材の利用拡大を図る「活樹」の重要性を埼玉から全国に発信し、輝く未来を実現することを誓う演出となりました。

最後に、濱田国土緑化推進機構理事長や埼玉県立秩父農工科学高等学校の生徒が大会宣言を行い、埼玉県知事から、次回、全国植樹祭が開催される愛媛県の中村知事に、全国植樹祭のシンボルである「木製地球儀」が手渡されました。

「第76回全国植樹祭」は、愛媛県松山市を主会場に開催される予定です。

おことばを述べられる天皇陛下

ケヤキをお手植えになる天皇陛下

久那小みどりの少年団から苗木を受け取る小泉農林水産大臣

埼玉県民参加によるアトラクション